



隊員と市関係者は取り組みへの決意を新たにしました

シカの食害は許さない！ 鳥獣被害対策実施隊に辞令

ニホンジカなどによる農作物の食害防止に取り組む「鳥獣被害対策実施隊」の辞令交付式は4月1日、あえりあ遠野で行われました。新隊員10人を含む隊員78人に辞令を交付。参加者は、官民が一丸となって鳥獣被害に立ち向かうことを誓いました。

本市市長は「被害を食い止めるために、皆さんの協力をお願いします」と激励。太田

代雅敏隊長は「市民の生命と財産を守るため、被害防止に全力で取り組みます」と決意を述べました。

同隊は、平成24年8月、猟友会のメンバーを中心に結成。市の非常勤職員として、主にニホンジカの捕獲、パトロールなどにあたっています。昨年度は約2千頭を捕獲した実績があり、その取り組みに期待が高まっています。

遠野市民センター自主事業

LEGEND Concert

コンサート Sat. Jun. 20. 2015

6月20日(土) 開場▷18時 開演▷18時半
あえりあ遠野交流ホール

ダイナミックな五重唱とアンサンブルで「クラシックなのにおもしろい！」と好評を博している、男性オペラユニット「LEGEND」のコンサート(主催:市、市教育委員会)を開催します。チケット好評発売中。お早目に!

■入場料(全席自由) 一般▷前売り/3,000円(特別料金) 高校生以下▷前売り1,500円(特別料金) ※当日券は500円増し。未就学児は入場できません
■プレイガイド とびあ、遠野風の丘、みやもりホール、みやもりmm1、市民センター、各地区センター、遠野市教育文化振興財団
■事務局・問い合わせ (一財)遠野市教育文化振興財団(☎62-6191)

The tono central public hall

11 広報遠野 ● 2015-05

まちなかギャラリー1階に 萩原印刷株が事業所拡大

書籍印刷を手掛ける萩原印刷(萩原誠社長、本社・東京都文京区)は旧遠野まちなかギャラリー1階に遠野事業所を拡大し、4月1日から、同所で業務を開始しました。

同事業所は、書籍の編集作業(組み版)を担う拠点として平成25年4月、旧遠野まちなかギャラリー2階に開所。事業拡大に伴い、新たに同所1階(約160平方メートル)を事務所

と展示スペースとして利用します。今年度は新たに4人を採用。平均年齢約21歳の若者15人(市出身者3人を含む)が働く、貴重な若者の雇用の場となっています。萩原社長は「事業所の拡大に協力して頂いた市民の皆さまに感謝します。若手社員と共に、遠野の元気なまちづくりに貢献していきたい」と決意を新たにしました。



左/改築された事務所で編集業務にあたる社員 右上/遠野事業所の外観 右下/新設された書籍展示スペース



テープカットで開所を祝う関係者ら

小友診療所の改築工事完了 地域医療を支える拠点に

老朽化に伴う改築工事を進めていた市国民健康保険小友診療所の開所式は3月26日、小友町の同所で開かれました。式では、テープカットや餅まき、施設見学などを実施。市関係者や地域住民ら80人は、生まれ変わった地域医療の拠点に期待を寄せました。

施設は木造平屋建てで、延べ床面積は約162平方メートル。総事業費は約8千万円。新たな

能の充実を図りました。

所長の山口淳医師(市中央診療所長)は「診療所を拠点に、認知症のサポートやがん患者の緩和ケアなどに取り組む、高齢化が進む地域の安心と健康を支えていきたい」と決意を新たにしました。診療初日の4月2日には、40人の患者が利用しました。

まち・ひと・しごと推進本部 未来を見据えスタート!

国の「まち・ひと・しごと創生法」の関連施策に対応する市の組織「まち・ひと・しごと推進本部」の第1回会議は4月13日、とびあ庁舎で開かれました。本部長と事務局員18人は、将来を見据え、地域課題解決に取り組むことを誓いました。

同本部は、昨年4月に設置した「子育てするなら遠野推進本部」と「遠野市六次産業推

進本部」を発展的に吸収。「人口ビジョン」と「地方版総合戦略」の策定などを行うほか、それらを基にした人口減少対策や地域経済活性化策を推進します。会議では、今後の取り組み方針と、スケジュールなどを確認。本部長の本田敏秋市長は「本市が今まで危機感を持って取り組んできたことに、国もようやく重い腰を上げた。今まで以上に知恵と



決意を述べる同本部長の本田市長(中央)

消防・防災無線デジタル化へ 迅速な情報伝達が可能に

消防救急デジタル無線・移動系デジタル防災行政無線の開局式(市消防本部主催)は3月24日、市総合防災センターで開催されました。消防関係者や工事関係者ら100人が出席。式典では本田市長が関係者に感謝状を贈り、市消防団に携帯型無線機を交付しました。また、関係者がテープカットを行い、命を守るデジタル無線の開局を祝いました。

従来のアナログ方式では、地域によって周波数が異なり、電波が届きにくかったりするなど課題がありました。デジタル化でこれらの課題を解決するために、市は総



市消防団に交付された「携帯型無線機」



務省の周波数有効利用促進事業を活用。平成25年度、同事業の全国第1号として同省から採択されました。総事業費は約9億円。基地局と中継局をそれぞれ2カ所ずつ設置したほか、全ての消防車や救急車、各地区センターなどに無線装置を配備しました。デジタル化により通信だけでなくフアックスなどのデータ通信が可能▽市関連施設内で災害情報を迅速にキャッチできるなど伝達機能が向上し、地域の防災力が高まりました。

本田市長は「東日本大震災から、正確な情報伝達が人命に大きく関わることを学んだ。デジタル無線を活用し、災害に強いまちづくりをさらに進めていきます」と決意を新たにしました。

アイデアを絞り出し、遠野の明るい未来を描いていきたい」と決意を述べました。